

大学等名：金沢大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）複合型

学生の主体性を涵養するカリキュラム・教育方法・学修支援環境の統合的な改革を目的として、学士課程の専門教育を対象に3つの施策：(1)学域・学類の中核をなす科目群でのアクティブ・ラーニング(AL)の深化・充実、(2)ALに適した学修環境の活用・展開、及び(3)学修過程・成果の可視化による学修評価の定量的評価(IR)に取り組む。

5年間の取組で、次の成果を上げる。(1)ALの取組を収集・検証・普及するための授業カタログの整備、FDリーダーの養成、授業改善サイクルの確立。(2)アクティブ・ラーニング・アドバイザー(ALA)の養成、ワークショップ教室等の学修空間デザイン、グループ学修支援体制の確立。(3)多元的な教育学修評価指標の開発、学修ポートフォリオ／カルテの運用、学生バックアップ・ポリシーの策定。

（取組のポイント）

3. 学修評価の定量的評価(IR)

- 多元的な教育学修評価法の確立 **能動的な学修**
- 学生支援・学修支援の方針(バックアップ・ポリシー)の策定

1. アクティブ・ラーニング(AL)の深化・充実

優れた授業を収録した授業カタログの作成とFDリーダーによるALの普及

授業カタログ
FDリーダー
授業法開発

2. 学修環境の活用・展開

アクティブ・ラーニング・アドバイザー(ALA)の導入とALに適した学修空間デザイン

ALA人材バンク
学修支援

主体的で自立的な深い学びの達成

対象部局と
対象科目

人間社会学域

理工学域

学域共通科目

学類専門基礎科目

▶ 学士課程専門科目へ展開

学修評価の
定量的評価

能動学修に関する、GPAとは異なる
新しい学修評価法の確立

客観
評価

客観的評価の
一層の精緻化

自己認知的な
学修評価

主観
評価

学生



振り返り

多元的な評価方法を開発

学生ひとりひとりのポートフォリオを作成



可視化

教員：教育方法・内容の改善
学生：自ら考える主体の形成

個々の学生に適した、テラーメイドの
学生支援・学修支援を行うこと

相互の主体的学びあい

バックアップ・ポリシーの基本

【事業の成果(代表的な指標)】

	26年度	28年度 (目標値)	30年度 (目標値)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	91%	95%	100%
学生の授業外学修時間	4時間	14時間	24時間

本事業の実施を通じて、これまでの改革を加速



第1ステージの改革

- 学域学類制のもとで
学生が自己の適性・資質を
見極めながら学ぶ環境の整備

第2ステージの改革

- 金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)を基軸とする
教育カリキュラムの再構築
- 学生の主体性を涵養する
カリキュラム・教育方法・
学修支援環境の統合